

令和元年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校

自己評価・学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		校訓「質実剛健」「創意実践」をもとに社会に貢献する人材の育成をはかる。				学校関係者評価																					
基本方針		1 健全な運営体制を維持する 2 時代が求める教育を展開する 3 法人内学校との連携強化をはかる 4 評価される進路実績作りを行う												※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。													
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策																		達成状況		5 : 最も良好			
平成30年度重点目標 ◎「目標生徒数を獲得する」 目標生徒数に届かなかったため、募集活動の見直しを行い、新たな視点から本校の認知度を高める内容を再検討した。 ◎「法人内学校との連携強化を図る」 高・専、高・大一貫のメリットを生かした教育を展開し、法人内各学校への進学者増につなげ一定の成果を得た。 ◎「時代が求める教育を展開する」 ディープアクティブラーニングの手法を交えながら、ICT、グローバル教育を展開した。また、第3期SSHの指定校となった。 ◎「評価される進路実績作りを行う」 新学習指導要領実施、大学新テストに対する教員の研修活動や生徒への試行も積極的に行われ、進路実績においても成果をあげたと判断できる。		【入口目標】 ◎入学者定員の獲得 【中身目標】 ◎ディープ・アクティブラーニング、ICT教育 グローバル教育、SSH3期目指定校、課題研究 【出口目標】 ◎自ら学ぶ姿勢、自ら学ぶ力を備えた人材の育成		◎成長ストーリーを描ける広報の展開 ◎多彩な進路に対応できる教育プログラムの展開 ◎法人のメリットを生かし法人内進学者を確保する ◎主体的・対話的・深く学ぶ姿勢の育成 ◎SDGs・国際連携・ICT教育等時代が求める教育の展開 ◎SSH第3期指定校としての取組み ◎きめ細やかな進路指導と入試改革への対応																		目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成 目標達成		4 : ほぼ良好			
								3 : 普通																			
								2 : やや不良																			
								1 : 不良																			
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均														
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	地域住民	教育関係者															
総務部	生徒・教職員が、落ち着いた学習活動、教育活動を行うことができる環境づくり	教務部等の他部署と連携し、多角的な視野で環境づくりを行った。	4	4.0	生徒増加を踏まえた万全の環境づくりを推進する。	5	5	4	5	5	5	4	4.8														
	地域の人たちに愛され応援される学校環境づくり。	施設の外部貸出しや地域との交流事業を積極的に実施した。	4		積極的な交流の発展と防犯・安全対策の両立を行う。	5	5	4	5	5	5	5															
総務課	式典や諸行事を通じ、礼節を育む。	教員からの指示待ちではなく、生徒自ら判断し、行動に移せるよう努めた。	4	4.0	災害・疾病など非常時の式典・行事等の想定をする。	5	5	4	5	5	5	4	4.7														
	防止意識の啓蒙と備えを行う。	防災マニュアルの見直しを行い、防災訓練を実施した。	4		S B乗車時の防災マニュアルの見直し・確立を行う。	5	5	4	5	5	5	4															
入試広報課	募集定員の確保。	募集に関する情報収集と分析・検証を行った。	4	4.0	学校改革と広報活動のマッチングを進める。	5	5	4	5	5	5	5	4.8														
		本学園の高専・高大一貫の魅力を伝える広報を展開した。	4		グループ力を伝える広報戦略の展開を行う。	5	5	4	5	5	5	5															
施設管理課	生徒・教員が安心して生活できる環境づくり。	校内の整備点検と用具補充を迅速に行った。	4	4.0	さらなるスピード感のある対応を行う。	5	5	4	5	5	5	4	4.8														
		事務、技師との連携を図り、迅速な補修対応を行った。	4		安心を第一とした点検・管理・連絡の徹底を図る。	5	5	4	5	5	5	5		4													
図書課	基本図書の充実を図る。	希望図書の購入計画に沿って随時書籍の更新を行った。	3	3.0	SSH活動や課題研究に役立つ書籍の充実を図る。	5	5	4	5	5	5	5	4.9														
	読書、学習等の図書館活動の推進を図る。	蔵書の保守・点検・管理を徹底した。	4		図書館そのもののパラダイム転換と多様な活用を進める。	5	5	4	5	5	5	5															
教務部	時代が求める教育を展開する。	SSH活動だけでなく、高大一貫コース等、多くの生徒が海外生徒と接する機会を増やし、グローバル教育を推進した。 高大接続改革・新教育課程への対応準備を促進した。	4	4.0	各活動予定に対して、新型コロナウイルスへの対応を早期に行う。 新学科設置に向け推進していく。	5	5	5	5	5	5	5	4.8														
教務課	時代が求める教育の展開と、働き方改革の推進を支援する。	時代の変化に対応した教育の研究・研修・提案を行った。 より効果的な年間行事・時間割の作成を行った。	4	4.0	考える力を伸ばす教育を目指していく。 各活動予定に対して、新型コロナウイルスへの対応を随時検討する。	5	5	4	5	5	5	5	4.6														
理数科	知識の確実な習得を目指した学習指導を展開する。	家庭学習の意識の啓発、黄金のサイクル強化を図った。	4	4.0	Classiを最大限活用する。	4	4	3	5	5	5	4	4.5														
	思考力・判断力・表現力・主体性を育む。	SSH活動を通じ、多様な人々と協働して学ぶ機会を多く作った。	4		今年度実施した課題研究のプログラムを振り返り、さらに充実させる。	5	5	3	5	5	5	5															
国際C科	英語を「学ぶことが楽しい・もっと学びたい」学科を目指す。	年間を通じて多くの英語体験を実施した。	4	4.0	主体的な英語体験を計画・実践する。	5	4	3	5	5	5	4	4.4														
		SSH国際活動への積極的な関わりを持たせ、英語の視野を広げた。			グローバルな活動を計画・実践する。																						
		海外姉妹校とWeb交流授業を実施した。			海外姉妹校の拡大を目指す。																						

研究開発部	サイエンス・イノベーションによって地域の未来を創る人材を育成する。	全校、全学科で課題研究を支援する体制確立を促進した。	4	4.0	課題研究を支援する体制を改善する。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		課題研究を1年生全員で実施した。			課題研究を1・2年生全員で実施する。								
		科学英語を1年生全員で実施、SKYSEF等、国際連携教育を促進した。			科学英語を1・2年生で実施、SKYSEF等、国際連携教育を継続する。								
		地域連携教育を促進した。			地域連携教育を継続する。								
創意実践課 (SSH・課題研究)	既SSH事業の迅速な移行	第3期SSH指定校として、全校、全教科での体制作りを行った。	4	4.0	全校、全教科での運営体制の改善を行う。	5	5	4	4	4	5	4	4.5
		課題研究を用いた人材育成プログラムを試行した。			課題研究を用いた人材育成を継続する。								
国際連携教育推進課	海外語学研修、海外姉妹校受入れのプログラムの改善を行い、恒久的な国際交流プログラムを構築する。	海外生徒の受入れについて、本校の授業・文化体験の改善を図った。	4	4.0	海外生徒の受入れの改善を図る。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		語学研修の改善を検討した。			語学研修の改善を行う。								
地域連携推進課	本校の既地域連携の記録を集積し、今後の在り方、促進させる方向性を検討する。	文化祭にて、SDG s 推進活動の振り返りと発表を行った。	4	4.0	SDG s 推進活動を継続する。	5	5	4	5	5	5	5	4.8
		静岡市との連携を促進した。			静岡市との連携を更に促進する。								
中学校	時代が求める教育を展開する。	DALの実践、ICT教育、グローバル教育を展開した。	4	4.0	ICT教育の更なる推進を図る。	5	5	5	4	5	5	4	4.7
		知識・技能・論理的思考力・言語能力の基礎を育む。			カリキュラムマネジメント、CASEプログラム、言語技術プログラムを展開した。								
中学1年部	生活指導・学習指導を通じ心を育む。	人・物・心を大切にできる生徒の育成に努めた。	4	4.0	特性のある生徒個々を認め、支えあえる集団の育成ができた。より高い質を求めて学ぼうとする生徒を増やし、学習・生活集団としての向上をはかる。	5	5	5	4	5	5	4	4.5
		諸活動を通して自ら学ぶ姿勢の育成を行った。											
中学2年部	基礎基本の定着、積極的な姿勢を育む。	授業、諸活動を通して、個々の目標を持たせた。	4	4.0	個々が目標を持つことによって、学習に対する意欲が向上した。目標を、どのように計画し実行していくかが課題である。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
	科学的な考え方、国際感覚を育む。	課題に対してプラス思考とチームワークを育んだ。											
中学3年部	3ヶ年の集大成として、「世界と世界を結ぶ」生徒を育成する。	多くの視点から、的確に判断する力を育んだ。	4	4.0	様々な教育プログラムに全力で向き合い、習得したスキルを活用しながらより完成度の高いものを求めていく姿勢を大いに育むことができた。また、他者を思いやり、認め合いながら、明確な目標を意識し、より豊かに学校生活が送れるように取り組むことができた。進路意識と確かな力の獲得のための仕掛けを継続的に用意することが必要である。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		人間力と共に学習力の向上を図った。											
高校1年部	夢や目標の実現に向け、互いを尊重し、高めあう姿勢を育む。	授業を中心に、基本的な生活習慣の確立を図った。	4	4.0	家庭学習が定着した結果、特に中上位層の成績が向上した。今後はより主体的な学習方法の確立が課題である。	4	5	4	5	4	5	4	4.4
		諸活動を通して、自律の精神と他者を思いやる豊かな人間性を育んだ。											
高校2年部	中堅学年としての自覚を持たせる。	健康・生活・学習面で自己管理のできる人間性を育んだ。	4	4.0	様々な課外活動を通して学習活動・進路に向けての目標を定めることができた。今後はさらなる学力の向上が課題である。	5	5	4	4	4	5	4	4.4
		積極的に課外活動に参加させ、社会性を育んだ。											
高校3年部	社会性と主体性を高め、進路目標を実現する。	目標に向け努力し、到達できる指導を展開した。	4	4.0	全体・個別指導を織り交ぜ、個々の生徒に即した進路指導を展開し、学力を伸ばした。担任、進学指導課、教科担当と生徒の情報を共有し、最適な体制を作る。	5	5	4	4	4	5	4	4.3
		ホームルーム活動を中心に、1年生からの継続的な取り組みを行った。											
			平均	4.0									4.4

学校関係者評価委員のコメント

- 部活動の強化にもう少し力を入れていただくと、バランスの良い学校となりレベルも上がると思います。
- スポーツでも勉強でも学生寮があれば、広く生徒募集につながるのではないかと思います。
- 日々の学校運営に全力で取り組まれていることを、保護者会として嬉しく思います。
- 創意工夫しながら、生徒にとって最適な教育環境であることを望みます。必要な物品や施設面での協力をしていきたいと思っています。
- ブロック塀の防災環境整備への素早い対応をありがとうございました。